

# 津波祈念館にブロック碑

建築 CB 工業会が協力



完成したブロック碑

東日本大震災の津波被害で流失せずに残った岩手県大船渡市赤崎町の補強ブロック造住宅前にコンクリートブロック製の碑が完成し7日、除幕式が行われた。

この碑は大船渡津波祈念館を保存する会（代表＝三船康道氏）が全国建築コンクリートブロック工業会（会長＝柳澤佳雄氏）の協力を得て設置した

たもの。

除幕式には、建物に住んでいた三浦千花野さんをはじめ、大船渡津波祈念館を保存する会代表の三船康道氏、全国建築コンクリートブロック工業会会長の柳澤佳雄氏ら10名余りが出席した。碑の大きさは縦横約1.6mほどで、表面には「大船渡津波祈念館」の文字と共に震災日と被災直後の建物の様子、裏面にはがれきに覆われた市内の様子をプリントした。

この建物は三浦さんの夫で気仙大工だった故賢吉さんが、昭和35年のチリ地震津波後、震災に強い補強ブロック造の普及を図るため建設した。東日本大震災の津波で三浦さん宅は2階の天井近くまで浸水したが、三浦さんはわずかな隙間に顔を出して奇跡的に助かり家も残った。

補強ブロック造の建物は大船渡津波祈念館を保存する会が中心となり、保存に向けた活動を展開している。同会の三船代表は「災害の教訓を後世に伝えるためにも保存したい」としており、付近に花を植える環境美化や建物内の整備などに取り組んでいくことにしている。